

《試験時間60分 100点満点》

つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

最近、雑誌やウェブで「ビッグデータ」といった見出しをよく見ます。ビッグデータはIT業界の用語で、通常のデータベースでは扱えないほど大規模なデータを指します。*マッキンゼーによれば、数十テラバイトから数ペタバイトのデータをビッグデータと呼びます。一ペタバイトは一キロバイトの一兆倍。住所録ファイルでは一名分が約一キロバイトですから一ペタバイトは一兆人分の住所録。世界人口は約七〇億人ですから、全世界の住所録の約一四〇倍分に相当します。とんでもない量です。(中略)

ビッグデータは、すでにいろいろなところで活用されています。たとえば、楽天やアマゾン・ドット・コムといった*eコマース事業者は、毎分一〇〇〇件を超える・オンラインショッピングの購買データを a b し分析することで、ユーザーへの*リコメンデーションなどに活用しています。リコメンデーションとは、ウェブ上での購入履歴等から顧客一人ひとりの趣味や嗜好しゅうこうを探り出し、それに合致すると思われる商品をウェブ上で顧客一人ひとりに推奨する機能です。(中略)

*ビクター・マイヤー＝シヨーンベルガーと*ケネス・クキエは、著書「Big Data: A Revolution That Will Transform How We Live, Work and Think」(邦訳『ビッグデータの正体―情報の産業革命が世界のすべてを変える』)の中で、ビッグデータの本質について、「部分統計から全数統計へ(From some to all)」という言葉で言い表しています。従来は、大量のビッグデータを扱えなかったため、*母集団の一部だけをサンプリングしてデータ計測していました(部分計測)。現在は、大量のデータを扱えるので、母集団のすべてをデータ計測できるのです(全数計測)。たとえば、顧客の購買行動に関するデータ収集をする場合、従来は顧客をラ

ンダムに c d してアンケート調査を実施していましたが、現在はウェブ上ならば全顧客の購買行動データを収集することができます。(中略)

部分計測ではなく全数計測できると何が変わるのか? シヨーンベルガーとクキエは、データ分析の方向性が、「因果関係の探求」から「相関関係の探求」へと変わると述べています。部分計測の世界においては、全体の現象を見ることはできません。そこで、人は、全体を凝縮した部分を計測することで、 X (因果関係)を見出し、それにより全体の現象を多少は理解できると考えました。この思考のプロセスを支えるのが統計学です。

たとえば、顧客に推薦する商品を決める場合、部分計測の世界では、アンケート調査などにより、「年齢が上がると、商品Aよりも商品Bを好む傾向にある」「所得が増えると、商品Cよりも商品Dを好む傾向にある」などの因果関係を検証し、それに従って顧客に推薦する商品を決めてきました。一方、全数計測の世界では、顧客間で購買行動の類似度を検証し(相関分析)、ある顧客に推薦する商品を決める場合には、その顧客と購買行動が類似している顧客が購買している商品とすれば良いのです。アマゾンはこの方法で顧客に商品を推薦し(リコメンデーション機能)、売上を伸ばしているのです。

【あ】、部分計測から全数計測になると何が良くなるのでしょうか。すべての個人ないしすべての個体の挙動に関するデータを分析できますから、予測や判別の精度および*分解能が格段に向上します。部分計測の世界では大まかなグループ単位で予測や判別をせざるを得なかったのに対し、全数計測の世界では個人や個体の単位できめ細かい予測や判別が可能になります。但し、因果関係はわかりません。予測や判別の精度と分解能は高くなりますが、その根拠はわからないのです。

人間とは、身の回りの現象について理由を知ろうとする知的欲求を持ちます。その欲求が生み出したものが科学です。しかし、(一)ビッグデータの世界では、理由を知ろうとする知的欲求を封印し、現象の挙動パターンを理解することで満足

しなければなりません。【イ】、意思決定の種類によつては、理由がわからな
 いような予測結果や判別結果を使うことに抵抗を感じることもあるでしょう。そ
 のような意思決定においては、ビッグデータの力を活用することは難しいかもし
 れません。

多くのビジネスマンは、ビッグデータの派手な成功事例を垣間見て、ビッグデ
 ータに関心を持ち、「自社でもビッグデータを活用できないか?」という思いを持
 っているようです。しかし、実際には、それほどうまくいっていないようです。
 その理由は三つあります。

一点目は、必要なデータがすべて揃っていないことです。たとえば、
 クレジットカード会社では顧客が「どの店でいくら払ったか」のデータは保有し
 ますが、「何を買ったか」のデータは保有しません。ポイントカード発行会社であ
 っても常にそのポイントカードを使つてもらえなければ、データは揃いません。

【う】、顧客の購買行動を分析するのに限界があります。自社で保有している
 「ビッグデータ」だけでは、課題を解決するのに不足する場合があります。

【4】二点目は、説明責任を果たせないことです。ビッグデータ分析では、因果関係
 はわかりません。分析結果をもとに意思決定する場合、その理由を経営陣や顧客
 に説明できないのは大きな弊害になります。たとえば、分析結果をもとに個人へ
 の費用負担額（たとえば保険料）や機会提供（たとえば老人ホーム入居可否）を
 決めるようなことをすれば、顧客はその理由についての説明を求めてくるでしょ
 う。（E）ビッグデータは、そのような説明責任に^{こづち}応えることは難しいのです。

三点目は、「ビッグデータ」は、^{こづち}打出の小槌ではないからです。どれだけ大規
 模なデータを集めても、そこから^{あふ}イノベーションが Y。ビジネスへ
 の展望なしでビッグデータを分析しても、役に立たない分析結果が溢れ出るだけ
 です。

【5】実際、ビッグデータ分析での成功事例を見ていると、分析の前段階で明確な目
 標を持っています。カード不正利用の検知率を上げよう、ユーザーへのリコメン

デーションを改善して売上を伸ばそう、診断や投薬の確度を上げよう、などなど。
 ビッグデータは、打出の小槌ではなく、Z なのです。明確な目的を持
 つて挑まなければ、情報過多の世界を彷徨い^{さまよ}続けるだけです。但し、目的は所与
 ではなく、あなた自身が考えなければなりません。

（河本 薫『会社を変える分析の力』による）

（注）*マッキンゼー……アメリカの調査会社であるマッキンゼー・アンド・

カンパニー、およびその研究機関マッキンゼー・グローバル・イン
 スティチュートを指す。

*楽天やアマゾン・ドット・コム……インターネットを利用した通信販
 売サービスを行う企業。

*eコマース……電子商取引。コンピュータネットワーク上の情報通信
 によつて商品の売買を行うこと。

*リコメンデーション……顧客の行動履歴をデータベース化して分析し、
 効率よく商品情報を提供すること。

*ケネス・クキエ……著名な経済誌の技術担当編集者。

*母集団……調査の対象となる特性を有する、すべての事物の集団。

*分解能……測定対象をどのくらい細かくあつかえるかに係る能力。

*イノベーション……新しいアイデアから生み出される社会的に意義
 のある技術や方法論。

問一 つぎの [] 内の段落を挿入する箇所としてもつとも適切なものを、次の①

⑤から一つ選んでマークしなさい。

- ① [1] ↓
- ② [2] ↓
- ③ [3] ↓
- ④ [4] ↓
- ⑤ [5] ↓

一方、全数計測の世界においては、全体の現象についてデータが揃ってい
 るのですから、因果関係を探求することなく、全体現象の挙動パターン（時

問二 空欄 a ～ d に入れるのにもっとも適切なものを、つぎの枠内から一字ずつ選んでマークしなさい。ただし、a と b、c と d は、二字ともあつていなければ正解とはしない。また、同じ漢字を重ねて選ばないこと。

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| ① 出 | ② 奨 | ③ 象 | ④ 触 | ⑤ 積 |
| ⑥ 選 | ⑦ 畜 | ⑧ 抽 | ⑨ 定 | ⑩ 励 |

問三 空欄 X ～ Z に入れるのにもっとも適切なものを、つぎの各群の

①～⑤からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

X ① 凝縮される前の部分どうしの配置

② 全体と部分との間の比例的な対応

③ 現象の内部に存在していた固有の組織

④ 全体の現象を支配する普遍的な法則

⑤ 計測可能な限りでの客観的な全体像

Y ① 芽生えてきたことはありません

② つむぎだされることは非常にまれです

③ 勝手に生まれてくる訳ではありません

④ 見いだされなければならないとは言えません

⑤ もたらされることは決してないのです

Z ① 未開の土地

② 不毛の荒野

③ 適否の歧路

④ 非凡の秀峰

問四 空欄 あ ～ う に入れるのにもっとも適切なものを、つぎの各群の

①～⑤からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

あ ① また ② 但し ③ では

い ④ あるいは ⑤ もしくは

① さて ② つまり ③ そして

④ ですから ⑤ もちろん

う ① しかし ② あるいは ③ そこで

④ そのため ⑤ 全く

問五 傍線部(二)「ビッグデータの世界では……満足しなければなりません」と主張しているのはなぜか、その説明としてもっとも適切なものを、つぎの ①～⑤から一つ選んでマークしなさい。

① ビッグデータに追って予測や判別の分解能が向上すればするほど、現象の相関関係や因果関係が限度を超えて複雑化し、その現象の生じる理由も人知の及ばないようなレベルにまで達してしまうから。

② ビッグデータを用いると現象の挙動やパターンが直接理解できるので、因果関係を問題にしてそのパターンの生じる理由について究明するという作業が、そもそも必要ではないから。

③ ビッグデータではすべての個体の挙動に関するデータを分析できるので、現象の全体像を省みる視点が欠落してしまっているため、現象全体にとつての唯一の理由というものが計測できないから。

④ ビッグデータでは、従来は例外として処理されていたものまで分析対象としなければならぬので、例外なしに妥当する因果関係、すなわち包括的な理由が存在しなくなるから。

⑤ ビッグデータ分析においては相関関係こそがすべてであつて、どの個体の

挙動パターンを観察しても、理由と呼べるような因果関係には従っていないから。

問六 傍線部(四)「ビッグデータは、そのような説明責任に応えることは難しい」について、筆者がそのように主張する理由を、文章全体をよく読んで、六十字以上、八十文字以内で説明しなさい。

二 つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

世界のすべての言語は、「若者言葉」と呼ぶことのできる一群の表現を持っています。若者言葉はいずれも、若者のあいだのカジュアルなコミュニケーションにおいてのみ用いられる隠語の一種であり、フォーマルな文章にこれが姿を現すことはありません。また、若者言葉には、流行語としての側面もあります。「若者」ではない人々なら、自分が若いころに使っていた言葉、あるいは、同年代の人々が使っていた言葉を思い出すことにより、若者言葉に **A** のあることはすぐわかるはずですが。

最初は若者言葉であったものが使用される範囲を広げ、普通の会話で用いられる表現として流通するようになる例があります。**【あ】**「かっこいい」「かっこ悪い」は、戦後のある時期に若者言葉として姿を現したものの一つです。明治生まれ、大正生れの人の中には、「かっこいい」「かっこ悪い」に **B** を感じる人がいるかも知れません。私が小学生のころから少しずつ耳にするようになった「いまいち」「ダサイ」もまた、若者言葉から普通の会話表現に格上げされたようです。

ところで、新しく姿を現した若者言葉に、「やばい」という形容詞があります。この形容詞は、もともとは、何か都合の悪いものの、危険なものを指し示すために使われていました。しかし、若者言葉として使われる場合、これは、本来の否定的な意味を失い、**X** 「もの一般を表します。「やばい」は、若

者言葉としてはすでにながく使われているものですから、やがて、「*〈俗〉(「口」などの記号とともに)国語辞典に搭載され、普通の形容詞として流通するようになるかも知れません。(中略)

私は、若者言葉としての「やばい」を使うべきではないと考えています。少なくとも、自分自身の言葉としてこれを使ったことはありません。**【い】**、**【う】**「やばい」を使うことにより、感情の質がいちじるしく傷つけられ損なわれるように思われるからです。

「やばい」は、大変に便利な言葉です。**X** ような性質を具えた事柄はすべて、「やばい」の使い方さえ身につければ何についても、適切な言葉の選択に頭を悩ませるつらい作業をすべて免れることができるからです。

【う】「一つひとつの事柄には、*ユニックな性質があり、このような性質を受け止めるときに私たちの心に現れる気持の一つひとつにもまた、他に替えることのできない個性が認められねばなりません。日本語の豊かな語彙は、このような個性の差異を正確に表現する努力の中で、ながい年月をかけて形作られてきたものです。

「やばい」の一語を使えば、事柄の性質や自分の気持に適合する言い回しを工夫する面倒な作業を省略することが可能になります。しかし、たとえば、一〇〇種類の表現を「やばい」によって置き換えることが許されるようになると、生き残るのは「やばい」であり、一〇〇種類の表現の方は、死語になることを避けられません。一〇〇種類の表現の使い方を記憶し、使い方をたえず工夫することは、脳に大きな負担を強いるからです。「やばい」という万能の代用品をただ一つ憶えている方がよほどラクであることは間違いないでしょう。

ただ、「やばい」が使われる限り、私たちの言語使用の能力がその分だけ損なわれることは確かです。「やばい」に慣れた者にとり、この言葉の使用をあえてみずからに禁じ、これを場面に応じて適切に言い換える作業は、途方もなくつらい作業になります。これは、滅多に使われることなく痩せ衰えた筋肉を無理やり動か

す労苦に似たものとなるに違いありません。

「やばい」の問題は、言語使用の能力の問題にとどまるものではありません。

一〇〇種類の表現が区別していた一〇〇種類の事柄を味わい分ける力を捨てることと同じだからです。「やばい」を無差別に連発するうちに、事柄を把握する枠組は大雑把になり、感情は粗雑になります。(中略)

映画を観たあと、観たばかりの映画について熱く語った経験は誰にでもあるはず。このようなとき、私たちは、語らずにはいられないという感じ、いくら語っても語り尽くすことのできない(a)もどかしい感じにつき動かされています。

このような感じは、決して不自然ではありません。芸術作品を享受するときに惹き起こされる複雑な感動の正体を見きわめるには、何よりもまず、説明に多くの言葉を必要とするからであり、さらに、もどかしい感じとともに説明を重ねるうちに、感動の正体が少しずつ明らかになり、(b)感情が経験として獲得されるからです。感情というのは、決して単純なものではないのです。

感動の正体は、映画を観て感動した私たち一人ひとりのあり方を示し、自己了解の手がかりとなるものです。それとともに、感動は、表現を与えられ、他人と共有されることにより、(b)普遍的な意義を獲得します。感情は、私のあり方と世界のあり方を同時に指し示すものであり、この意味において、共有されることにより初めて意味を持つもの、本質的に公的なものなのです。(中略)

私たちは、言語を手がかりにして感情を獲得し、感情を理解し、感情を共有します。感情は、私たち一人ひとりが何物であるかを告げるものであるとともに、私たちが身を置く世界の真相を普遍的な仕方でも明らかにするものでもあります。具体的な感情をその都度正しく受け止めることは、自律的な自足的な生存への通路なのです。みずからの心に姿を現す感情の一つひとつを丁寧な吟味し、これを言葉に置き換える努力は、誰にとっても必要であり、価値あるものであるに違いありません。

これに反し、「やばい」の一語を連発する者の目に、感情は、単純で明瞭なもの

として、つまり、吟味も説明も必要ないものと映るはず。いや、正確に言うなら、*彼女の注意を惹くものはすべて、吟味することも説明することもできぬもの、単に「やばい」だけのものとなるでしょう。彼女の前に広がる世界は、ただ二色に塗り分けられたもの、濃淡もなくグラデーションもないもの、単純きまわすものとならざるをえません。彼女は、感情を慎重に吟味し、自己了解と根源的な真理へといたるかわりに、「虚偽意識」に支配され、自己喪失と自己欺瞞に陥り、(c)利己的な行動へと促されることになるでしょう。彼女は、「感情に振り回されている」ように見えます。しかし、一般に「感情に振り回されている」と表現されるような行動は、本当は、意識と感情を故意に混濁させることで生れた「気分」を [C] とする一種の現実逃避にすぎないと私は考えています。

(清水 真木『感情とは何か——プラトンからアーレントまで』による)

(注) * (俗) (口) …… 国語辞典で俗語・口語を表す記号。

*ユニック…ユニーク。唯一であるさま。また、そのものだけが他と異なるさま。

*彼女…「やばい」の一語を連発する者一般を指しており、特定の人物を示すものではない。

問一 空欄 [A] [C] に入れるのにもっとも適切なものを、つぎの各群の

①～⑤からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

- | | | | | | |
|---|------|------|------|------|------|
| A | ① 階級 | ② 交替 | ③ 倒錯 | ④ 順列 | ⑤ 混乱 |
| B | ① 羞恥 | ② 引力 | ③ 造反 | ④ 抵抗 | ⑤ 共感 |
| C | ① 口実 | ② 道理 | ③ 実態 | ④ 目的 | ⑤ 約束 |

問一 空欄 [あ] [う] に入れるのにもっとも適切なものを、つぎの各群の①

⑤ からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

【あ】 ① また ② なぜなら ③ たとえば

④ つまり ⑤ そして

【い】 ① さらに ② なお ③ ただし

④ というのも ⑤ もしくは

【う】 ① しかも ② なぜなら ③ まず

④ したがって ⑤ とはいえ

問三 二重傍線部 (a) ～ (c) の意味としてもっとも適切なものを、つぎの各群の

① ～ ⑤ からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

(a) もどかしい

① じれったくと思うようならない。

② そうなればよいときりに思う。

③ やってみたいくてたまらない。

④ 面倒なことにかかずらつていやだ。

⑤ 心細くて頼りない。

(b) 普通

① ごくありふれていること。

② 広くゆきわたり、あまねく万物に及ぶこと。

③ 世間一般に見られる状態であること。

④ 同一であること。

⑤ 特別でない、ふつうのこと。

(c) 刹那的

① 享楽を第一とするさま。

② 疑いを持って物事に接する傾きのあるさま。

③ 今のことしか考えないさま。
④ 昔を思い出してなつかしく思うさま。
⑤ 考えが現実と離れているさま。

問四 空欄 [X] に入れるのにもっとも適切なものを、つぎの ① ～ ⑤ から選

んでマークしなさい。なお、空欄 [X] は、本文中に二か所あるので注意すること。

① 気が利いている

② 注意を向けるに値する

③ 美しく心奪われる

④ 用心が必要である

⑤ 壊れやすく繊細である

問五 傍線部(1) 『やばい』を使うことにより、感情の質がいちじるしく傷つけら

れ損なわれる」と筆者が考える理由は何か、五十字以上、七十字以内で説明しなさい。

問六 傍線部(2) 「感情が経験として獲得される」とはどういうことか、その説明と

してもっとも適切なものを、つぎの ① ～ ⑤ から一つ選んでマークしなさい。

① 感情は、他人と共有されることによって初めて意味を持つ、本質的に公的なものであるということ。

② 若者言葉などの新しい表現が、普通の会話で用いられる表現として流通するようになること。

③ 自分と世界のつながり方が言語化されることで、自分にとってその意味が明らかになること。

④ 日本語の豊かな語彙が個性の差異を表現する努力によって形作られたこと

- ⑤ 多くの表現の使い方を記憶し工夫することで、言語使用の能力を維持することを。

以下の各設問に答えなさい。

三

問一 つぎの傍線部のカタカナに相当する漢字を楷書で丁寧に書きなさい。ただし、該当する漢字が複数ある場合は、どちらを書いても正解とする。

- (a) 大学で教授から薫トウを受けた
- (b) かれはいつも用意周トウだ
- (c) 会社の同リヨウに電話する
- (d) 砂漠に泉がワキ出た
- (e) カンバしい成績をあげる

問二 つぎの空欄に入れるのにもっとも適切な漢字を、各群の①～④からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

- (a) 実に殊 な心がけだ。
 - ① 賞
 - ② 祥
 - ③ 勝
 - ④ 傷
- (b) 全員で打開策を じる。
 - ① 候
 - ② 講
 - ③ 効
 - ④ 巧
- (c) 大自然の 吹を感じる。
 - ① 射
 - ② 息
 - ③ 生
 - ④ 偉
- (d) そんなのは朝三暮 の言い逃れだ。
 - ① 一
 - ② 二
 - ③ 三
 - ④ 四
- (e) 父は 口牛後の教えを遺した
 - ① 一
 - ② 二
 - ③ 三
 - ④ 四

- ① 馬
- ② 虎
- ③ 鶏
- ④ 猫

体育進学センター

【解答】

問一 ②

問二 A B ⑦ ⑤ C D ⑧ ①

問三 X ④ Y ③ Z ①

問四 あ い う ④ ④ ④

問五 ②

問六 ビッグデータを用いると、現象の挙動パターンが理解できてしまうので、

現象の背後にある因果関係を探る必要がなくなり、意思決定の根拠を示せなくなるため。(73字)

問一 A ② B ④ C ①

問二 あ い う ③ ④ ⑤

問三 (a) ① (b) ② (c) ③

問四 ②

問五 多様な事柄に対応して生まれる多様な感情を、「やばい」一語で片づけることによって、多様な事柄を味わい分ける力が衰え、感情が粗雑になるから。

(68字)

問六 ③

問一 (a) 陶 (b) 到 (c) 僚 (d) 湧 (e) 芳
 問二 (a) ③ (b) ② (c) ② (d) ④ (e) ③

【解説】

問一 脱文の冒頭が「一方、全数計測の世界においては」とあることに注目する。

脱文の直前は「全数計測」と対比関係にある「部分計測」の話題があるはずである。選択肢の中では2しかない。

問二 天理大では頻出の熟語問題。文脈の読み取りと、語句知識の両方が問われる。abは分析のために、毎分1000件を超えるデータに対して行われることで、枠内の漢字の組み合わせで出来る熟語で考えると、「蓄積」が合う。

cdは「顧客をランダムに…」と直前にあることから、「選り出す」というような意味が入ると考え、「抽出」を選び取る。⑥①で「選出」もあり得るが、

「抽出」のほうには「多くの中から抜き出す」という意味があり、よりしっくりくる。

問三 まずXだがXの直後に(因果関係)とあるのが大きなヒントになる。「因果関係」とは「二つ以上のもの間にある原因と結果の関係」のこと。さらに前後の文脈もとらえていくと、「全体を凝縮した部分を計測すること」、「空欄部の因果関係を見出し、「全体の現象を多少は理解できる」ということであるから、つまり空欄内の因果関係とは、部分(原因)と全体(結果)の因果関係を指すことになる。以上のことから④が正答となる。「普遍的な法則」というのが「部分計測」でわかる原因の部分の指す。他の答えは部分→全体の形になっていない。

次にY。前文に『ビッグデータ』は、打出の小槌ではない」と述べられている。「打出の小槌」はおとぎ話に出てくる、振るとなんでも出てくる小さな槌(ハンマーのようなもの)のことだが、この文では、その内容を踏まえたうえで、「ビッグデータを持っているだけで、どんどんイメージが湧き出てくるといふことはない」ということを述べている。また、空欄の一文後ではビッグデータについて、「分析の前段階で明確な目標を持って」いる場合に多く

の成功事例があることが書かれている。以上のことから、空欄前後では、ビッグデータは、明確な目標を持って利用しなければ役に立たない旨が書かれていることを読みとる。①、②、⑤では目標を持った場合でもイノベーションが生まれにくいことになってしまう。④ではそもそもこの文で述べてきた、ビッグデータの意義がなくなってしまう。

最後に[Z]だが、[Y]とはほぼ同趣旨の問題である。先述したように、ビッグデータは、明確な目標を持って利用しなければ、ただの役に立たない(それも大量の)分析結果に過ぎない、ということである。それを踏まえると①しかない。②(不毛)、⑤(無益)ではいつまでもたっても良い結果は出ないであろうし、③(適否)では文脈にそぐわないし、④(非凡)では必ず良い結果が出ることになるだろう。

問四 接続語は一貫して前後のつながりを考えることである。[あ]は後が問いかけ文になっており、新たな問題提起がなされていると考え、転換の③。[い]では、前にビッグデータでは理由を知ることができない旨が述べられ、後に理由がわからないことで起こる不安が述べられているので、順接の4。[う]も前にビッグデータの欠点として特定のデータしか揃いきらない旨、後に分析するのに限界がある旨が書かれているので、順接の④を選ぶ。

問五 第五段落、また、その直前に入る問一の脱文に「因果関係を探求することなく、詳しくあるので手がかりにする。特に脱文に「因果関係を探求することなく、全体現象の挙動パターンを直接理解することができません」とあることが一番の根拠になる。問三[X]の問題でも述べたが、部分計測では部分↓全体の因果関係を考えることが大前提にあるが、全体計測ではそんな段階を踏まずとも、分析ができるのである。

問六 傍線部に指示語を含んでいるので、まずそこから手がかりにするとよいだろう。「そのような説明責任」とは、その前文にある費用負担額や機会提供を決めるような場合の、顧客への理由説明の責任を指す。そして、その文の最

初に「たとえば」とあることからわかるように、その内容はさらに前文にある、ビッグデータ分析において意思決定理由の説明ができない旨の具体例となっている。さらにその直前には、ビッグデータ分析では因果関係がわからず、説明責任を果たせない旨が述べられており、意思決定理由を示せない理由になる。まとめると、「ビッグデータ分析では因果関係がわからない」↓「意思決定の根拠を示せない」↓「説明責任に応えられない」という流れになる。さらに問五ではビッグデータ分析では因果関係がわからない理由を「因果関係を探る必要がない」と明らかにしているので、その内容も盛り込んでまとめればよい。

問一 [A]を含む一文とその直前の文は若者言葉に流行があるという話題である。少し説明が欠ける部分はあるが、[A]の直前の内容「若者」ではない人々なら、自分が若いころ使っていた言葉……を思い出すことにより」というのは現在の若者言葉と比較してみると、ということだ。比べてみれば、流行により若者言葉の変化がよくわかる、ということを書いたであろう。よって[A]には変化した、とか、入れ替わった、という言葉を入れればよい。[B]は一文前から文脈をたどると明治、大正生まれの人が戦後に出てきた「かつこい」「かつこ悪い」という言葉をどう感じるか、という文脈。当然、なじめないものであるだろう。[C]は「感情に振り回されている」という表現が、実は「気分」を[C]として現実逃避をしている、という文脈。「気分」に関しては「意識と感情を故意に混濁させることで生れた」とあることから、自分で作り出した「気分」を理由にして実は自分から現実逃避しているということであろう。そこから①「口実」を選ぶ。

問二 [あ]に関しては直前に「例があります」と前置きしたうえで、後に例を置いている形なので、非常に容易。具体例を表す③「たとえば」でよい。[い]

も後の文の終わりが「からです」となっていることから理由を説明する④「というもの」。**【う】**は前が、「やばい」という一語でさまざまな事柄を表現でき、つらい作業から逃れられるというプラスの内容。後は事柄にはそれぞれ他と異なる性質があり、人間の気持一つひとつにも個性がある、という内容で、逆接の④「とはいえ」を選ぶ。

問二 語句の意味を答える問題は、文脈にこだわりすぎることなく、語句の本来の意味に重点を置き、答えることが大切である。普段から語句知識の学習は欠かせない所である。設問はどれも基本的なものばかりであるが、特にb「普遍」がわからないような人は、評論文読解を学ぶ入口にも立てていないと自分を戒めてもらいたい。ちなみにc「刹那的」の「刹那」はそれだけだと「非常に短い時間。瞬間。」を指す言葉である。

問四 現在若者に使われている「やばい」の意味を答える問題である。文中に「やばい」という言葉は多数出ており、逆的にを絞りづらう。丁寧に探していくと最終段落に「彼女の注意を惹くものはすべて……単に『やばい』だけのものとなるでしょう」という記述が決定的な手がかりになる。

問五 傍線部に「感情の質が著しく傷つけられ……」とあることに注目する。つまり、「やばい」の語を使うことの感情面への影響について述べられている段落に注目する。一〇段落以降にもさまざまな説明があるが、一番端的にまとまっている第九段落を元にまとめるのがよい。

問六 第九〜十段落に感情の獲得についての詳しい説明がある。「感情は、表現を与えられ、他人と共有されることにより、普遍的な意義を獲得します」「感情は、私のあり方と世界のあり方を同時に指し示す」「言語を手がかりにして感情を獲得し」などから、感情とは「自己と世界のあり方を指し示し、言語により他人と共有されることにより獲得されるもの」と理解することができる。①は迷いそうだが、言語について触れられていないので不適。②は若者言葉に関する説明で、不適。④は「日本語の豊かな語彙」などが本文で触れられ

ておらず、不適。⑤も感情の獲得には関係ない記述であるので不適である。

問一 a「陶」は「陶器」から「焼き物」の意味のイメージが強いが、この場合は「教え導く」の意味もある。d「わく」は「湧く」と「沸く」の同訓異字に気をつけること。

問二 a「殊勝」は「心がけや行動が感心なさま。けなげなさま」。d「朝三暮四」は「目先の違いに気をとられて、実際は同じであるのに気がつかないこと。あるいは「うまい言葉や方法で人をだますこと」。e「鶏口牛後」は「大きな団体で人の尻についているよりも、小さな団体でもトップに立つほうがよい」という意である。意味の分からない語句はしっかりと調べる。積み重ねが肝要である。